

第94回

天神会医療文化セミナー

(社医) 天神会の理念 人々の豊かな生涯を支援する医療

移りゆく社会文化の中での医療の今日を学び、考える糧となることを願っています。

画家の絶筆から生と死を考える

講師 森山 秀子 (久留米市美術館 副館長)

日時/2018年4月19日(第3木曜) 19:00~20:30

会場/新古賀病院 記念講堂 (管理棟5階)

久留米市天神町120 電話 0942-38-2222(代)

西鉄久留米駅東側出口から南へ 徒歩5分

【講演要旨】 同じ年(1882年)に同じ久留米に生まれた画家、青木繁と坂本繁二郎。二人は、絵に対する向き合い方も、生き様も対照的でした。青木は若くして画壇デビューを果たし、入院先の病院で孤独のうちに28歳で亡くなります。晩成型の坂本は家族に看取られながら87年の生涯を閉じます。

二人の画家の絶筆(最後の作品)もまた対照的で、それぞれの生の集大成と捉えることも可能です。その絶筆(青木の海と坂本の月)を通し、二人の死生観に近づきたいと思います。

天神会 新古賀病院/古賀病院 21